

令和7年度

授業計画

Syllabus 2025



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School

— 第 1 学年 —

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代の国語	2	高校1年1組～9組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『精選 現代の国語』（東京書籍）	『四訂版 TOP2500』（いっずな書店） 『現代評論キーワード講義』（三省堂） 『三訂版プログレス現代文総演習基本編』（いっずな書店）

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に取り組む態度
漢字・語句の意味内容を的確に理解することで、世界をより細やかに分節し、視野を広げている。 本文中の筆者の主張を明確に把握することで、他者の意見を正確に捉えている。 上記の学習を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	文章を構造的に捉える読解力を育んでいる。 文章全体の主題・主張・根拠を捉える要約力を身に付けるよう努力している。 上記の読解を通して培った論理的思考力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	様々なテキストに触れることで、言葉の価値への認識を深め、自らの読解力を養うとともに、言葉を通して社会や他者に様々な視点を持ちつつ関わっていく態度を育んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス・問題演習 「届く言葉」	国語の学習法、ノートを取り方、基礎学力到達度テスト対策 筆者のものの見方や表現の特色に注意して随想を読む。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	5	「評論の読み方」 語彙力養成 問題演習	評論文読解の基本を学ぶ。 『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
	6	「今ここにある無数の未知」 語彙力養成	筆者の体験と考えを踏まえ、世界と自分との関係について考察する。 『四訂版 TOP2500』を活用する。	
	7	問題演習	『プログレス現代文総演習』を活用する。	
2	9	「言葉は世界を切り分ける」	言葉による世界の分節化について理解し、文化の多様性の例を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	10	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
	11	「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	人工知能の問題点を知ることによって、人間とは何かについて探究する。	
	12	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
3	1	「真の自立とは」	「自立」の在り方について、現代社会における具体的な課題を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	2	「共鳴し引き出される力」	引き続き、異なった考え方を述べた文章を読み比べし、「自立」の在り方について、現代社会における具体的な課題を学ぶ。	
	3	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	現代の国語	2	高校1年10組～13組（特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『精選 現代の国語』（東京書籍）	『四訂版 TOP2500』（いっずな書店） 『現代評論キーワード講義』（三省堂） 『三訂版プログレス現代文総演習基本編』（いっずな書店） 『グランステップ現代文』（尚文出版）

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に取り組む態度
漢字・語句の意味内容を的確に理解することで、世界をより細やかに分節し、視野を広げている。 本文中の筆者の主張を明確に把握することで、他者の意見を正確に捉えている。 上記の学習を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	文章を構造的に捉える読解力を育んでいる。 文章全体の主題・主張・根拠を捉える要約力を身に付けるよう努力している。 上記の読解を通して培った論理的思考力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	様々なテキストに触れることで、言葉の価値への認識を深め、自らの読解力を養うとともに、言葉を通して社会や他者に様々な視点を持ちつつ関わっていく態度を育んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス・問題演習 「届く言葉」	国語の学習法、ノートを取り方、基礎学力到達度テスト対策 筆者のものの見方や表現の特色に注意して随想を読む。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	5	「評論の読み方」 語彙力養成 問題演習	評論文読解の基本を学ぶ。 『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
	6	「今ここにある無数の未知」 語彙力養成	筆者の体験と考えを踏まえ、世界と自分との関係について考察する。 『四訂版 TOP2500』を活用する。	
	7	問題演習	『プログレス現代文総演習』を活用する。	
2	9	「言葉は世界を切り分ける」	言葉による世界の分節化について理解し、文化の多様性の例を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	10	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
	11	「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」	人工知能の問題点を知ることによって、人間とは何かについて探究する。	
	12	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	
3	1	「真の自立とは」	「自立」の在り方について、現代社会における具体的な課題を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	2	「共鳴し引き出される力」	引き続き、異なった考え方を述べた文章を読み比べし、「自立」の在り方について、現代社会における具体的な課題を学ぶ。	
	3	語彙力養成 問題演習	『四訂版 TOP2500』を活用する。 『プログレス現代文総演習』を活用する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	言語文化	2	高校1年1組～9組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『精選 言語文化』（東京書籍）	『新明説漢文』（尚文出版） 『新明説漢文ノート』（尚文出版） 『読んで見て聞いて覚える古文単語 315』（桐原書店） 『新修古典文法』（啓隆社） 『新修古典文法ドリル編』（啓隆社） 『みるみる実力アップ古典総合』（第一学習社） 『日本文学史必携』（第一学習社）

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に取り組む態度
漢字・語句の意味内容を的確に理解することで、世界をより細やかに分節し、視野を広げている。 本文中の筆者の主張を明確に把握することで、他者の意見を正確に捉えている。 上記の学習を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	文章を構造的に捉える読解力を育んでいる。 文章全体の主題・主張・根拠を捉える要約力を身に付けるよう努力している。 上記の読解を通して培った論理的思考力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	様々なテキストに触れることで、言葉の価値への認識を深め、自らの読解力を養うとともに、言葉を通して社会や他者に様々な視点を持ちつつ関わっていく態度を育んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス・問題演習 「兄のそら寝」	国語の学習法、ノートの取り方、基礎学力到達度テスト対策 古文読解の基本（動詞の活用）を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	5	「訓読の基本」	漢文の基本・訓読（返り点・送り仮名）を学ぶ。	
	6	「大江山の歌」 「和歌の修辞」 「再読文字」	古文読解の基本（用言の活用・係り結び・和歌の修辞）を学ぶ。 漢文の基本（再読文字・否定・疑問など）を学ぶ。	
	7	「矛盾」	故事成語を学ぶ。	
2	9	「ゆく河の流れ」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	10	「朝三暮四」	漢文の寓話の構成と表現を学ぶ。	
	11	「筒井筒」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	
	12	「雑説」	漢文の文章に慣れる。	
3	1	「羅生門」	小説読解の基礎を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	2	「天の羽衣」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	
	3	「唐詩」	漢詩の基本を学ぶ。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	言語文化	2	高校1年10組～13組（特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『精選 言語文化』（東京書籍）	『新明説漢文』（尚文出版） 『新明説漢文ノート』（尚文出版） 『読んで見て聞いて覚える古文単語 315』（桐原書店） 『新修古典文法』（啓隆社） 『新修古典文法ドリル編』（啓隆社） 『みるみる実力アップ古典総合』（第一学習社） 『日本文学史必携』（第一学習社） 『プロGRESS古典総演習』（いいずな書店）

1. 学習の目標

国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。また、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。さらに、言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に取り組む態度
漢字・語句の意味内容を的確に理解することで、世界をより細やかに分節し、視野を広げている。 本文中の筆者の主張を明確に把握することで、他者の意見を正確に捉えている。 上記の学習を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	文章を構造的に捉える読解力を育んでいる。 文章全体の主題・主張・根拠を捉える要約力を身に付けるよう努力している。 上記の読解を通して培った論理的思考力を基に、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めている。	様々なテキストに触れることで、言葉の価値への認識を深め、自らの読解力を養うとともに、言葉を通して社会や他者に様々な視点を持ちつつ関わっていく態度を育んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス・問題演習 「児のそら寝」	国語の学習法、ノートの取り方、基礎学力到達度テスト対策 古文読解の基本（動詞の活用）を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	5	「訓読の基本」	漢文の基本・訓読（返り点・送り仮名）を学ぶ。	
	6	「大江山の歌」 「和歌の修辞」 「再読文字」	古文読解の基本（用言の活用・係り結び・和歌の修辞）を学ぶ。 漢文の基本（再読文字・否定・疑問など）を学ぶ。	
	7	「矛盾」	故事成語を学ぶ。	
2	9	「ゆく河の流れ」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	10	「朝三暮四」	漢文の寓話の構成と表現を学ぶ。	
	11	「筒井筒」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	
	12	「雑説」	漢文の文章に慣れる。	
3	1	「羅生門」	小説読解の基礎を学ぶ。	定期試験 小テスト 授業への取り組み 提出物
	2	「天の羽衣」	古文の用言の復習・助動詞を学ぶ。	
	3	「唐詩」	漢詩の基本を学ぶ。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	地理総合	2	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新地理総合』（帝国書院） 『新詳高等地図』（帝国書院）	『新詳地理資料 COMPLETE2025』（帝国書院） 『データブックオブザワールド vol.37：2025』（二宮書店）

1. 学習の目標

系統的内容について、世界の様々な地域の特徴や共通点を結びつけて学習する。系統的内容のうち、自然環境について学習し、世界各地と日本における自然環境の差異や、それに伴う生活の違いを理解する。また、産業に関する内容を学習することにより、世界の様々な地域の特徴や共通点を理解する。さらに、グローバル化する現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方・考え方を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や、追究の方法を理解し、知識を身につけている。また、地図や統計など地域に関する諸資料を扱い、地理的事象を追究する技能を身につけている。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、地域性をふまえて、国際社会の変化について多面的・多角的に考察するとともに、資料を用いた表現方法を身につけている。	世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	【大地形】 ・地球のすがた ・大陸移動説 ・プレートテクトニクス ・地体構造 ・自然環境と防災	・世界全体から大規模な地形をみると、そこに類似性や規則性がみえてくることを理解する。 ・世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の分布などには特徴があること、人の生活との関わりについて災害や防災、減災の視点を入れながら整理する。	定期試験 授業への取り組み 提出物
	5	【小地形】 ・河川がつくる地形 ・海岸地形 ・氷河地形 ・乾燥地形 ・カルスト地形 等	・河川を上流部から河口部までたどりながら、地形の分布と人間生活との関連を整理する。 ・海岸地形やその他の特殊な地形と人間生活との関連について考え、地域開発のあり方や、環境問題との関連を理解する。	
	6	【気候】 ・気候要素 ・気候因子 ・大気大循環 ・ケッペンによる気候区分 ・自然環境と防災	・世界の気候が、緯度・隔海度・高度・風・海流などによって影響を受けていることを理解する。 ・大気の大循環と緯度による降雨の違いの関係を理解し、それが砂漠や前線の分布、気象災害に関わることを知る。 ・世界の気候区分の一例として、ケッペンが植生を指標に気温・降水量などを用いて区分した13の気候区について、分布の特徴と成因について整理する。	
	7	【植生・土壌】	・それぞれの気候条件に対する植生・土壌について整理し、地球上の人々の生活は多様だが、その生活や各地の気候条件に対応していることを理解する。	
2	9	【農牧業】 ・ホイットルセイによる農牧業区分 ・農産物の流通 ・食糧問題	・世界の農牧業区分の一例として、ホイットルセイが区分したものをを用い、先進国と発展途上国の農業経営の形態の相違と、生産コスト・収益性の相違との相関を整理する。 ・農業に関する地域的差異を、自然条件だけでなく、文化や経済などから多角的・多面的に捉える。	定期試験 授業への取り組み 提出物

	10	【水産業】 ・漁場の条件 ・世界の主な漁場	・水産業がさかんになる条件を自然・社会の両面から理解する。 ・主な漁場を取り上げ、日本と世界各地との類似性や差異を考察し、気候と水産業とが密接に関係していることを考える。	
	11	【資源】 ・エネルギー資源 ・鉱産資源 ・利用の現状	・世界全体からみたエネルギー・原料資源には地域的な多様性があることを理解する。 ・エネルギー・資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較し、その類似性に気づく。また、日本の状況をそこから考える。	
	12	【工業】 ・工業成立史・工業発達史 ・立地条件 ・国際化 ・世界の主な工業地域	・産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることを理解する。 ・工業の発達要素について理解し、その分布には類似性があることを整理する。 ・複数の工業地域を扱い、それぞれの共通点や差異を比較する。	
3	1	【地球環境問題】 ・酸性雨 ・地球温暖化 ・オゾン層の破壊 ・砂漠化 ・熱帯林の破壊	・世界的視野からみた環境問題・エネルギー問題には、多様な地域があることを理解する。 ・環境問題とエネルギー問題の間には相互に関連の深い問題も多く、地域ごとに複雑な状況であることを認識し、解決には国際協力が必要で緊急性もあることを理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物
	2	【人口・人口問題】 ・世界の人口 ・人口構成 ・世界の人口問題 【都市・都市問題】 ・都市の発達 ・都市、居住問題	・世界の人口分布が偏っていることを理解し、要因を自然環境や社会環境の結びつきから考察する。 ・人口問題を大きく世界的にみていくと、人口の急増と高齢化の二つに分けられることを理解し、それぞれ地域性があることを理解する。 ・都市の形成、機能と構造について理解する。 ・都市の機能が経済の発展とともに変化したことを学び、そこで起こる都市問題や取り組みについて理解する。	
	3	【時差】 ・時差の発見・計算 【地図表現】 ・世界地図の特徴 ・地理情報システムの活用	・大航海時代以降、時差が認識された事を紹介し、国際化が進行する中で時差の理解の必要性を考える。 ・世界地図には様々な描き方があるということを知り、用途に応じた地図の利用が大切であるということを理解する。 ・G I Sの仕組みを学び、高度な情報を地図上で表現できる可能性を模索し、有効な活用方法について考察する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	歴史総合	2	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『詳述 歴史総合』（実教出版）	『詳述 歴史総合 徹底整理演習ノート』（実教出版）

1. 学習の目標

近現代の歴史の変化にかかわる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身につける。また、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育む。その際、我が国の歴史に対する愛情や、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。また、諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通し歴史的事象を追究している。	近現代の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察している。国際社会の変化を踏まえ、公正に判断している。	近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。また、我が国の歴史に対する愛情や、他国や他国の文化を尊重している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1章 近代化への胎動	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解する。 ・江戸幕府が、対外貿易をどのように管理したのかを考察する。	授業への取り組み 提出物 定期試験
	5	第2章 欧米の市民革命と 国民国家の形成	・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界市場の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。 ・アメリカ独立革命の意義や建国後のアメリカ合衆国の課題について考察する。 ・フランス革命の過程で、政治体制が変化していく過程を把握し、フランス人が革命でめざした社会を考察する。 ・南北戦争後のアメリカ社会の変化について、諸資料を活用しながら、協働的に考察し、表現する。 ・イギリス産業革命についての記述をふりかえって、工業化で「世界の工場」となったイギリスを中心に、国際的な経済秩序が形成されたことを理解する。	
	6	第3章 アジアの変容と日本の近代化	・開国から明治維新にいたるまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して理解する。 ・幕末における統一国家機構の芽生えから幕府の滅亡にいたるまでの経過を社会・経済の変化と関連づけて考察する。	

	7	第3章 アジアの変容と日本の近代化	・明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ・政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の開始から立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成される過程を考察する。	
2	9	第4章 帝国主義の時代	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較する。 ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。	授業への取り組み 提出物 定期試験
	10		・日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りとその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	
	11	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦前後の政治動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえ考察する。 ・第一次世界大戦が国家体制やヨーロッパ以外の地域に与えた影響、戦争の性格について、諸資料を活用して協働的に考察し、表現する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。	
	12		・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解し、普選運動など政党政治の発展から政党内閣成立までの意義を理解する。 ・第一次世界大戦前後の欧米と日本の共通点と相違点について、考察する。	
3	1	第6章 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌に対する各国の対応を比較し、ファシズムの台頭を考察する。 ・ドイツやイタリアの対外侵略と周辺国の動向を捉える。 ・満洲事変から国際連盟の脱退にいたる日本の対外政策の推移を理解する。 ・日中戦争の下での日本と中国の社会の変化を理解する。	授業への取り組み 提出物 定期試験
	2		・第二次世界大戦末期の社会の様子を考察する。 ・大戦後のヨーロッパ諸国の状況を比較する。 ・国際平和をめざす動きについて捉える。	
	3		・冷戦が開始した経緯について考察する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
地歴・公民	公共	2	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『詳述公共』（実教出版）	『2025 ズームアップ公共資料』（実教出版） 『詳述公共 演習ノート 新課程版』（実教出版）

1. 学習の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え、考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身につける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方、生き方についての自覚や、公共的な空間に生き、国民主権を担う公民としての自覚を深める。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	・エゴグラムの作成を通して、客観的に自己を捉える。そして、「自分」の多面性について認識する。 ・エゴグラムを通じて、青年期の「自分」がどの部分を強化していきたいかを考察する。 ・「青年期」とはどのような概念か、基本語句を通して理解を深める。 ・「大人」と「子ども」の違いについて考察する。 ・青年期の特徴を心理学的な定義などをや、国ごとの青年期の捉え方の違いについて学習し、その背景を考察する。	授業への取り組み 定期試験 提出物
	5	第1編 公共の扉 第1章 社会を作る私たち	・個人としての発達課題と、公共的な空間の中での発達課題について相互関連的に捉え、その上で自己のキャリアデザインについて考える。 ・現代日本に色濃く残っている儒教の影響について探求し、それらの影響を受けていない日本固有の伝統や文化を考察する。 ・日本人が重視してきた倫理観が時代の変遷とともにどのように広まっていくのかを学ぶ。 ・日本の近代化の中で、個というものの捉え方をどのように受容したかを考察する。	
	6	第1編 公共の扉 第2章 人間としてよく生きる	・先哲の思想を通じ、人間の理性によって考察される様々な人間像や、生き方等を学びながら自らの論理的思考能力を養うことを試みる。	

	7	第1編 公共の扉 第3章 民主社会の倫理	・日々よく耳にする「社会」という言葉の概念について改めて考察し、社会の一員として生きる私たちのあるべき姿を模索する。	
2	9	第1編 公共の扉 第4章 民主主義の作り方	・法などの社会規範の役割を理解し、日常生活と関連づけて考察する。 ・国家の概念や民主政治の誕生に関して、歴史的な背景を概観しながら紹介し、理解する。 ・民主政治における国家と個人のあり方を考察し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方、生き方について思索を深める。	授業への取り組み 定期試験 提出物
	10	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	近代国家においては、国家権力の専制を防ぎ、国民の権利を守るために憲法を制定して政治を行うことを理解する。 ・わが国においては、近代国家の体裁をととのえるために大日本帝国憲法が制定された。その内容について理解する。 ・日本国憲法の制定過程について、歴史的背景をふまえながら概観し、その基本原理について学ぶ。 ・明治憲法と日本国憲法の差異について俯瞰する。	
	11	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	・自由権の特性について学び、それに伴う判例を知る。 ・平等権の特性について学び、それに伴う判例や差別問題の事例を知る。 ・社会権、参政権、請求権の特性について学び、それに伴う判例や差別問題の事例を知る。	
	12	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 第1章 日本国憲法の基本的性格	・社会権、参政権、請求権の特性について学び、それに伴う判例や差別問題の事例を知る。	
3	1	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第2章 日本の政治機構と政治参加	・日本での選挙における、特に若年層の投票率の低さについて、その原因と対策について考察する。 ・日本の政治機構について学ぶ。 ・選挙への投票以外での政治参加の在り方や、マスメディア、SNSの世論への影響の大きさについて学び、その課題と可能性について考察する。	授業への取り組み 定期試験 提出物
	2	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第3章 現代の経済社会	・資本主義経済が成立、発展してきた時代背景を確認する。 ・国家の経済への介入や世界経済との一体化など、20世紀以降進展した資本主義経済の変容を理解する。	
	3	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち 第3章 現代の経済社会	・市場経済の機能と限界について具体的事例を通じて多面的・多角的に考察、構想する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学Ⅰ	3	高校1学年1～9組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ』(啓林館) 『数学Ⅱ』(啓林館)	『アドバンスα 数学Ⅰ+A』(啓林館) 『アドバンスα 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)』(啓林館) 『数学Ⅰセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Aセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Ⅱセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Bセット(Libry)』(啓林館(Libry))

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟を目指す。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。さらに、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、その事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	〔数学Ⅰ〕 第1章 数と式 第1節 多項式 第2節 実数	多項式とその加法・減法、多項式の乗法、因数分解、3次式の展開と因数分解 実数、根号を含む式の計算、対称式と基本対称式	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	第3節 1次不等式 第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ	1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式(含場合分けによる解法)、2重根号 関数、2次関数のグラフ、2次関数の決定、関数のグラフの平行移動、関数のグラフの対称移動	
	6	第2節 2次関数の最大・最小	2次関数の最大・最小、最大・最小の応用	
	7		問題演習	
2	9	第3節 2次関数と方程式・不等式	2次方程式、2次関数のグラフとx軸の共有点、放物線と直線の共有点、グラフと2次不等式、2次不等式の応用、絶対値を含む関数のグラフ	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張	正弦・余弦・正接、三角比の相互関係 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の範囲にある角 θ の三角比、三角比の相互関係	
	11	第3節 正弦定理と余弦定理 第4節 図形の計量	正弦定理、余弦定理、正弦定理と余弦定理の応用、三角形の形状決定 図形の面積、ヘロンの公式、空間図形の計量	
	12		問題演習	

3	1	〔数学Ⅱ〕 第1章 式と証明・方程式 第1節 多項式の乗法・ 除法と分数式 第2節 式と証明	3次の乗法公式と因数分解, 二項定理, $(a+b+c)^n$ の 展開式の係数, 多項式の除法, 分数式の計算 恒等式, 等式の証明, 不等式の証明	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	第3節 複素数と 2次方程式	複素数, 2次方程式, 2次方程式の解と係数の関係	
	3		問題演習	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学 I	3	高校1 学年 10～13 組 (特別進学クラス)

使用教科書	副 教 材
『数学 I 』(啓林館) 『数学 II 』(啓林館)	『アドバンス α 数学 I +A 』(啓林館) 『アドバンス α 数学 II +B+ベクトル (数学 C) 』(啓林館) 『数学 I セット(Libry) 』(啓林館(Libry)) 『数学 A セット(Libry) 』(啓林館(Libry)) 『数学 II セット(Libry) 』(啓林館(Libry)) 『数学 B セット(Libry) 』(啓林館(Libry))

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟を目指す。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。さらに、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、その事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善する。

3. 学習計画および学習内容等

学 期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第2章 2次関数 1節 関数とグラフ 1 関 数 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の決定 2節 2次関数の最大・最小 1 2次関数の最大・最小 2 最大・最小の応用	関数、座標平面と関数のグラフ、定義域・値域、関数の最大・最小 平方完成、2次関数のグラフ、グラフの移動 頂点や軸が与えられた場合、3点が与えられた場合 2次関数の増減と最大・最小、定義域が制限されたときの最大・最小、最大・最小と2次関数の決定 定義域が変化するときの最大・最小、係数が変化するときの最大・最小	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	3節 2次関数と方程式・不等式 1 2次方程式 2 2次関数のグラフと x 軸の共有点 3 グラフと2次不等式 4 2次不等式の応用	因数分解による解法、2次方程式の解の公式、判別式、実数解の個数 2次関数のグラフと判別式、グラフが x 軸と異なる2点で交わる場合 グラフが x 軸と接する場合、グラフが x 軸と共有点をもたない場合、2次方程式・2次不等式の解のまとめ 連立不等式、すべての実数に対して成り立つ不等式、2次方程式の解の存在範囲	
	6	第4章 図形と計量 1節 鋭角の三角比 1 正弦・余弦・正接 2 三角比の相互関係 2節 三角比の拡張 1 $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の範囲	直角三角形を用いた三角比の定義、三角比の値、表、利用、仰角・俯角と三角比、 $90^\circ - A$ の三角比 座票を用いた三角比の定義、三角比のとり値の範	

		2 三角比の相互関係	囲, $180^\circ - \theta$ の三角比, 等式を満たす角, 直線の傾きと正接	
	7	3 節 正弦定理と余弦定理 1 正弦定理 2 余弦定理 3 正弦定理と余弦定理の応用	三角形の外接円における性質, 正弦定理, 利用 余弦定理の利用, 三角形の角の判別, 三角形の辺と角の大小関係 三角形の決定, 正弦定理の比例式としての活用	
2	9	4 節 図形の計量 1 図形の面積 2 空間図形の計量	三角形の面積, 3 辺が与えられたときの三角形の面積, 三角形の面積と角の二等分線の長さ, 三角形の面積と内接円の半径, 円に内接する四角形の面積 空間図形における測量	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	第1章 式と証明・方程式 1 節 多項式の乗法・除法と分数式 1 3 次の乗法公式と因数分解 2 二項定理	3 次の乗法公式, 3 次式の因数分解, 3 次式の因数分解の公式の利用 パスカルの三角形, 二項定理, 利用, 応用	
	11	3 多項式の除法 4 分数式の計算 第2節 式と証明 1 恒等式 2 等式の証明 3 不等式の証明	多項式の乗法, 商と余り, 商と余りの関係の利用 分数式の約分, 分数式の乗法・除法, 分数式の加法・減法, 分数式の通分, 繁分数式 多項式の恒等式, 分数式の恒等式 等式の証明, 条件付の等式の証明, 比例式 不等式の基本性質, 実数の平方と不等式, 相加平均と相乗平均, 相加平均と相乗平均の関係の利用, 平方による大小の比較, 絶対値を含む不等式	
	12			
3	1	【数学Ⅱ】 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	数直線上の2点間の距離, 線分の内分点, 外分点 2点間の距離, 内分点・外分点, ある点に関して対称な点 等 1次方程式の表す図形, 直線の方程式 平行と垂直, 直線に関して対称な点, 点と直線の距離, 証明	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	第2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線 研究 第3節 軌跡と領域 1. 軌跡 2. 不等式の表す領域 研究	円の方程式, $x^2+y^2+lx+my+n=0$ の表す図形, 3点を通る円の方程式 共有点の座標, 位置関係, 接線の方程式, 2つの円 等 2つの図形の共有点を通る図形 アポロニウスの円, 動点によって定まる軌跡 直線・放物線・円で分けられる領域, 連立不等式の表す領域 等	
	3		絶対値を含む不等式の表す領域	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	高校1学年1～9組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ』(啓林館) 『数学A』(啓林館) 『数学B』(啓林館)	『アドバンスα 数学Ⅰ+A』(啓林館) 『アドバンスα 数学B+C』(啓林館) 『数学Ⅰセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Aセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Bセット(Libry)』(啓林館(Libry))

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟を目指す。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。さらに、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、その事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	[数学A] 序章 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合 集合と要素の個数、3つの集合の要素の個数、場合の数、和の法則、積の法則	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	第2節 順列・組合せ	順列、円順列と重複順列、組合せ、同じものを含む順列、重複を許してとる組合せ	
	6	第3節 確率と期待値	事象と確率、確率の基本性質、期待値	
	7		問題演習等	
2	9	第4節 いろいろな確率 [数学Ⅰ] 第3章 集合と命題 第2節 命題と証明	独立な試行、反復試行、条件付き確率 命題と集合、逆・裏・対偶	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	[数学A] 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	直線と角、三角形の五心、 チェバの定理とメネラウスの定理、 三角形の辺と角の関係	
	11	第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	円周角の定理とその逆、円に内接する四角形、 円の接線、方べきの定理、2つの円の位置関係 作図 平面と直線、多面体	
	12		問題演習等	

3	1	[数学Ⅰ] 第5章 データの分析 第1節 データの整理と 分析	度数分布表とヒストグラム，データにおける代表値， データの散らばりと四分位数，分散と標準偏差， データの相関と散布図，相関係数，相関と因果， データの検証	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	[数学B] 第1章 数列 第1節 等差数列 ・等比数列	数列とその項 等差数列，等比数列	
	3		問題演習等	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学A	2	高校1学年10～13組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『数学Ⅰ』(啓林館) 『数学A』(啓林館) 『数学B』(啓林館)	『アドバンスα 数学Ⅰ+A』(啓林館) 『アドバンスα 数学Ⅱ+B+ベクトル(数学C)』(啓林館) 『数学Ⅰセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Aセット(Libry)』(啓林館(Libry)) 『数学Bセット(Libry)』(啓林館(Libry))

1. 学習の目標

概念を理解し、基礎的な知識の習得と数学的処理技能の習熟を目指す。また、数学的な思考力・判断力・表現力を身に付けることを目指す。さらに、事象を数学的に考察したり多面的に捉えたりする能力、習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、その事象を数式化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける。	数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	[数学A] 序章 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合 集合と要素の個数、3つの集合の要素の個数、場合の数、和の法則、積の法則	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	第2節 順列・組合せ	順列、円順列と重複順列、組合せ、同じものを含む順列、重複を許してとる組合せ	
	6	第3節 確率と期待値 第4節 いろいろな確率	事象と確率、確率の基本性質、期待値 独立な試行、反復試行、条件付き確率	
	7		演習問題	
2	9	[数学Ⅰ] 第3章 集合と命題 第2節 命題と証明 第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析	命題と集合、逆・裏・対偶 度数分布表とヒストグラム、データにおける代表値、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、データの相関と散布図、相関係数、相関と因果、データの検証	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	[数学A] 第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	直線と角、三角形の五心、 チェバの定理とメネラウスの定理、 三角形の辺と角の関係	

	11	第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	円周角の定理とその逆, 円に内接する四角形, 円の接線, 方べきの定理, 2つの円の位置関係 作図 平面と直線, 多面体	
	12		問題演習	
3	1	[数学B] 第1章 数列 第1節 等差数列・ 等比数列	数列とその項 等差数列, 等比数列	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	第2節 いろいろな数列	和の記号 Σ , 累乗の和, 階差数列, 数列の和と一般項, いろいろな数列の和	
	3		問題演習	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	高校1年1組～9組（総合進学クラス）

使用教科書	副教材
『新編 物理基礎』（数研出版）	『センサー 物理基礎』（啓林館）

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察、実験を通して、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を身に付ける。

主に物理分野に関する現象を観察、実験などを通して探究し、基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。将来的に理系物理を選択し、理工系の大学を目指すきっかけを作り、2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけることができる。	授業で学んだ内容を理解し、実験などを通して、科学的な思考力や判断力を身につけることができる。実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	身近な物理現象に興味、関心をもち、意欲的にそれらを学び、物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	物理数学 指数・有効数字・三角比 第1編 運動とエネルギー 1, 運動の表し方 ① 速度 ② 加速度	物理を学ぶ上で基礎となる、物理量の表し方や有効数字、データの扱い方を理解する。 運動を表す方法について理解する。 ① 運動している物体のようすを表すのに必要な物理量について学び、理解する。 ② 加速度について学び、加速度のある運動を記述する方法を理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	③ 落体の運動 2, 運動の法則 ① 力とそのはたらき	③重力を受けることで落下する物体の運動について理解する。 力が物体の運動に与える影響について理解する。 ①力とは何かを理解し、身近にはたらく代表的な力について学ぶ。力を図示できるようになる。	
	6	② 力のつり合い ③ 運動の法則 ④ 摩擦力を受ける運動	③ 「力がつりあう」とはどういうことか理解する。 ④ 力が物体の運動に与える影響について理解する。運動方程式を理解し、記述できるようになることを理解する。 ⑤ 摩擦力の性質を学び、摩擦を受ける運動について理解する。	
	7	⑤ 液体や気体から受ける力	⑤ 液体や気体の中にある物体が受ける力について理解する。	

2	9	3, 仕事と力学的エネルギー ①仕事 ⑥運動エネルギー ⑦位置エネルギー	仕事とエネルギーの関係について理解する。 ①物理で用いる仕事について理解する。 ②運動エネルギーについて学び, 仕事との関係性を理解する。 ③位置エネルギーについて学び, 仕事との関係性を理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	④力学的エネルギーの保存 第2編 熱 1, 熱とエネルギー ①熱と物質の状態	④「保存」について学び, 力学的エネルギー保存則を理解する。 熱がエネルギーの1つの形態であることを理解し, 熱をエネルギーの視点から学ぶ。 ①熱と物質の関係について学び, 熱量保存則を立式できることを理解する。	
	11	②熱と仕事 第3編 波 1, 波の性質 ①波と媒質の運動	③熱と仕事の関係性について理解する。 いろいろな波に共通する性質について学ぶ。 ①波の発生原理を学び, 波の基本事項を理解する。	
	12	②重ねあわせの原理	②波の衝突について考え, 波の伝わり方の特徴を理解する。	
3	1	2, 音 ①音の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴	波の性質をもとに, 音の示す現象について理解する。 ①音の性質と音の伝わり方について理解する。 ②弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	第4編 電気 1, 物質と電気抵抗 ①電気の性質 ②電流と電気抵抗	電気の基本的な性質と電気を運ぶ仕組みについて理解する。 ①電気の基本的な性質について理解する。 ②電流・電圧・電気抵抗の関係について理解する。	
	3	③電気とエネルギー	③電気とエネルギーの関係について理解する。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	物理基礎	2	高校1年10組～13組（特別進学クラス）

使用教科書	副教材
『新編 物理基礎』（数研出版）	『センサー 物理基礎』（啓林館）

1. 学習の目標

身近な自然の事象・現象についての観察，実験を通して，自然に対する関心や探究心を高め，物理的に探究する能力と態度を身に付ける。

主に物理分野に関する現象を観察，実験などを通して探究し，基本的な概念や原理・法則を系統的に理解する。将来的に理系物理を選択し，理工系の大学を目指すきっかけを作り，2年次で物理を選択した場合の基礎力を身に付ける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自然の事物・現象について，それらの基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身につけることができる。	授業で学んだ内容を理解し，実験などを通して，科学的な思考力や判断力を身につけることができる。実験の過程と結果及びそこから導き出した考察を的確に表現することができる。	身近な物理現象に興味，関心をもち，意欲的にそれらを学び，物理という学問について探求することができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	物理数学 指数・有効数字・三角比 第1編 運動とエネルギー 1, 運動の表し方 ①速度 ②加速度	物理を学ぶ上で基礎となる，物理量の表し方や有効数字，データの扱い方を理解する。 運動を表す方法について理解する。 ①運動している物体のようすを表すのに必要な物理量について学び，理解する。 ②加速度について学び，加速度のある運動を記述する方法を理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	③落体の運動 2, 運動の法則 ①力とそのはたらき ②力のつりあい ③運動の法則	③重力を受けることで落下する物体の運動について理解する。 力が物体の運動に与える影響について理解する。 ①力とは何かを理解し，身近にはたらく代表的な力について学ぶ。力を図示できるようになる。 ②「力がつりあう」とはどういうことが理解する。 ③力が物体の運動に与える影響について理解する。 運動方程式を理解し，記述できるようになる。	
	6	④摩擦力 ⑤液体や気体から受ける力 3, 仕事と力学的エネルギー ①仕事	④摩擦力の性質を学び，摩擦を受ける運動について理解する。 ⑤液体や気体の中にある物体が受ける力について理解する。 仕事とエネルギーの関係について理解する。 ①物理で用いる仕事について理解する。	
	7	②運動エネルギー	②運動エネルギーについて学び，仕事との関係性を理解する。	

2	9	③位置エネルギー ④力学的エネルギーの保存 第2編 熱 1, 熱とエネルギー ①熱と物質の状態 ②熱と仕事	③位置エネルギーについて学び, 仕事との関係性を理解する。 ④「保存」について学び, 力学的エネルギー保存則を理解する。 熱がエネルギーの1つの形態であることを理解し, 熱をエネルギーの視点から学ぶ。 ①熱と物質の関係について学び, 熱量保存則を立式できるようになる。 ②熱と仕事の関係性について理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	第3編 波 1, 波の性質 ①波と媒質の運動 ②重ね合わせの原理 2, 音 ①音の性質 ②発音体の振動と共振・共鳴	いろいろな波に共通する性質について学ぶ。 ①波の発生原理を学び, 波の基本事項を理解する。 ②波の衝突について考え, 波の伝わり方の特徴を理解する。 波の性質をもとに, 音の示す現象について理解する。 ①音の性質と音の伝わり方について理解する。 ②弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解する。	
	11	第4編 電気 1, 物質と電気抵抗 ①電気の性質 ②電気と電気抵抗	電気の基本的な性質と電気を運ぶ仕組みについて理解する。 ①電気の基本性質を理解する。 ②電流について学び, オームの法則を理解する。	
	12	③電気とエネルギー	③電気による発熱作用を学び, 電力, 電力量について理解する。	
3	1	2, 磁場と交流 ①電流と磁場 ②交流と電磁波	磁場中で生じる現象について理解する。 ①磁場と電流の関係について理解する。 ②直流, 交流の違いと電磁波について理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	第5編 物理学と社会 1, エネルギーの利用 ①エネルギーの移り変わり ②エネルギー資源と発電	エネルギーの種類やエネルギーの利用方法について学ぶ。 ①いろいろなエネルギーについて学び, エネルギーの変換について理解する。 ②エネルギー資源と発電方法について理解する。	
	3	総合演習	1年間の総復習を行い, 物理現象に関してより理解を深める。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合があります。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年1組

使用教科書	副教材
『高等学校 化学基礎』（啓林館）	『センサー 総合化学 3rd Edition』（啓林館）

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験の技能を習得している。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりし、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できる。	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、化学的態度を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と混合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の熱運動と物質の三態	- 物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探求しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付けるようにする。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	第2章 物質の構成 粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	- 原子の構造について理解する。 - 元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けるようにする。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。	
	6	第3節 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合 第3節 金属結合	- イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 - 共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けるようにする。	
	7	第4節 物質の分類と融点	(3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付けるようにする。	

2	9	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量 第2節 物質量(mol)	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 (1)化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。 (2)化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	第3節 化学反応式と化学変化の量的関係	(3)原子量、分子量、式量および物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができる。 (4)化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量および物質量の知識を身に付けるようにする。	
	11	第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基 第2節 水の電離とpH 第3節 酸・塩基の中和と塩	・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 (1)酸・塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 (2)酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。	
	12	探求5 中和滴定	(3)ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得する。 (4)日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることが出来る。さらに、中和滴定の量的関係を理解する。	
3	1	第3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元 第2節 酸化剤と還元剤	・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 (1)酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けるようにする。 (2)代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できるようにする。 (3)酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	第3節 金属の酸化還元反応	(4)金属のイオン化傾向と関連付けて金属の反応性を考察する。	
	3	第4節 酸化還元反応の利用	(5)イオン化傾向の差によって電流が流れる電池の仕組みと、具体的な例について学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年2組～9組(総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 化学基礎』 (啓林館)	『センサー 総合化学 3rd Edition』 (啓林館)

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心高め、物質を探求する方法を身につける。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。

2. 評価内容

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験の技能を習得している。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりし、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できる。	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、化学的態度を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と混合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の熱運動と物質の三態	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。 (2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を身に付ける。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	第2章 物質の構成 粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	・原子の構造について理解する。 ・元素の周期律を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。	
	6	第3節 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合 第3節 金属結合	・イオンの生成について学習し、イオン結合、イオン結晶を理解する。 ・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。	
	7	第4節 物質の分類と融点	(3) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を身に付ける。	

2	9	第2部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量 第2節 物質質量 (mol)	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 ・化学反応における量的関係について学ぶ。 (1)化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 (2)化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	第3節 化学反応式と化学変化の量的関係	(3)原子量、分子量、式量および物質質量を理解し、物質質量を用いた簡単な計算ができる。 (4)化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量および物質質量の知識を身に付ける。	
	11	第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基 第2節 水の電離とpH 第3節 酸・塩基の中和と塩	・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。 (1)酸・塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 (2)酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。	
	12	探求5 中和滴定	(3)ビュレット、ホールピペットなどの取り扱いができると同時に、中和滴定の技能を習得する。 (4)日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えることができる。さらに、中和滴定の量的関係を理解する。	
3	1	第3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元 第2節 酸化剤と還元剤	・酸化・還元の定義を理解し、酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学ぶ。 (1)酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 (2)代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現できる。 (3)酸化還元反応における量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	第3節 金属の酸化還元反応	(4)金属のイオン化傾向と関連付けて金属の反応性を考察する。	
	3	第4節 酸化還元反応の利用	(5)イオン化傾向の差によって電流が流れる電池の仕組みと、具体的な例について学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	化学基礎	2	高校1年10組～13組(特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『高等学校 化学基礎』（啓林館）	『センサー総合化学』（啓林館）

1. 学習の目標

化学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う化学の役割や物質の扱い方を理解するとともに、物質に対する関心を高め、物質を探求する方法を体得する。また、基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。物質に関する基本的な概念や法則を理解するとともに、それらの日常生活と関連付けて考察できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験の技能を習得する。	化学的な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験などを行うとともに、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりし、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断できる様にする。	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探求するとともに、化学的態度を体得する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1部 物質の構成 第1章 物質の構成 第1節 純物質と化合物 第2節 物質とその成分 第3節 粒子の運動と物質の三態	・物質は混合物と純物質、化合物と単体などに分類されていることを学習する。 (1) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探求する。 (2) 混合物の分離や成分元素の確かなる実験を理解し、物質を探求する具体的な方法を体得する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	第2章 物質の構成粒子 第1節 原子の構造と電子配置 第2節 イオン 第3節 元素の周期表	・原子、イオンの構造について理解する。 ・元素の周期表を理解し、周期表の成り立ちについて学習する。 (1) 物質の構成粒子に関して理解し、知識を体得する。 (2) 電子の配置のされ方に応じて、原子の性質が異なることを推論する。	
	6	第3節 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合 第3節 金属結合	・イオン結合について学習し、イオン結晶を理解する。 ・共有結合、金属結合について学習し、化学結合によって物質が分類できることを理解する。 (1) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解する。 (2) 物質の構造や性質に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。	
	7	第4節 物質の分類と沸点	(3) 物質の分類を理解し、知識を身に付ける。	

2	9	第2部 物質の変化 第1章 物質量と 化学反応式 第1節 原子量・分子量 式量 第2節 物質量(mol)	・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 ・物質量とその応用を理解する。 ・物質の溶解と濃度について学習する。 (1) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察する。 (2) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを考察する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	第3節 化学反応式と化学 変化の量的関係	・化学反応における量的関係について学習する。 (3) 原子量、分子量、式量および物質量を理解し、物質量を用いた簡単な計算ができるようにする。 (4) 化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量および物質量の知識を身に付ける。	
	11	第2章 酸と塩基 第1節 酸と塩基 第2節 水の電離と pH 第3節 酸・塩基の中和 と塩	・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 ・中和を理解し、塩の種類を学習する。 (1) 酸・塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究する。 (2) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。	
	12	第3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元	・酸化・還元の定義を理解する。	
3	1	第2節 酸化剤と還元剤	・酸化剤、還元剤について学習する。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解する。 (1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を体得する。 (2) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見出し、自らの考えで表現する。 (3) 酸化還元反応における量的関係を物質量と関連付けて考察する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	第3節 金属の 酸化還元反応 第4節 酸化還元反応の 利用①	・金属のイオン化傾向にもとづいて、金属の反応性を学習する。 (1) 金属のイオン化傾向と関連付けて金属の反応性を考察する。 (2) イオン化傾向の差によって電流が流れる電池の仕組みと、具体的な例について学習する。	
	3	第4節 酸化還元反応の 利用②	(3) 酸化還元反応の一種であり、電流を流すことで強制的に反応を起こす電気分解の仕組みについて学習する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物基礎	2	高校1年1～9組（総合進学クラス）

使用教科書	副 教 材
『高等学校 生物基礎』（第一学習社）	『新課程版 ニューグローバル 生物基礎』（東京書籍）

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高められるようにする。また、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身につけられるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をできるようにしている。 生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・単細胞生物と多細胞生物、細胞群体について理解する。 ・生物に共通な特性について理解する。 ・各種細胞の大きさについて理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	生物の特徴	・基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 ・代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 ・代謝（呼吸と光合成）の概念について学ぶ。 ・ATPの構造と働きについて理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。	
	6	遺伝子とその働き	・遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 ・遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 ・遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。	
	7	遺伝子とその働き	・遺伝子とゲノムについて理解する。 ・細胞内での遺伝子発現について理解する。 ・染色体とバフについて理解する。	
2	9	体内環境	・体内環境の維持について理解する。 ・血液の成分と働きについて学ぶ。 ・酸素解離曲線、血液凝固について学ぶ。 ・体液の循環、心臓の構造について学ぶ。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	体内環境維持のしくみ	・体内環境を調節する器官について理解する。 ・自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。	

	11		・内分泌系による調節（ホルモンのはたらき）について学ぶ。 ・血糖量調節について学ぶ。 ・体温調節について学ぶ。	
	12	免 疫	・生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 ・免疫系（自然免疫・獲得免疫）について理解する。 ・免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。	
3	1	植生の多様性と遷移	・植生とその環境について理解する。 ・森林の構造と光環境について学ぶ。 ・陰生植物と陽生植物について理解する。 ・遷移（一次遷移，二次遷移）について理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	バイオームとその分布 生態系とその保全	・世界のバイオーム，日本のバイオームについて理解する。 ・水平分布と垂直分布について学ぶ。 ・生態系の成り立ちについて学ぶ。 ・生態系を流れるエネルギーについて理解する。 ・栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 ・炭素と窒素の循環について理解する。 ・生態系の物質収支について理解する。 ・生態系のバランスと保全について理解する。	
	3		・生物の多様性保全の重要性について学ぶ。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	生物基礎	2	高校1年10組～13組 (特別進学クラス)

使用教科書	副 教 材
『高等学校 生物基礎』（第一学習社）	『新課程版 ニューグローバル 生物基礎』（東京書籍）

1. 学習の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高められるようにする。また、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を身につけられるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に関心を持ち、主体的に探求する姿勢を身につけている。	生物や生命現象を実証的・論理的に考え、科学的な判断をできるようにしている。 生物や生命現象に関する観察・実験技術を身に付けて、結果から出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象について基本的な概念や原理法則についての理解を深め、知識を身につけている。

3. 学習計画および学習内容等

学 期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	生物の特徴	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・単細胞生物と多細胞生物、細胞群体について理解する。 ・生物に共通な特性について理解する。 ・各種細胞の大きさについて理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	5	生物の特徴	・基本的な細胞構造と細胞小器官を理解する。 ・代謝における酵素のはたらきについて学ぶ。 ・代謝（呼吸と光合成）の概念について学ぶ。 ・ATPの構造と働きについて理解する。 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源について学ぶ。	
	6	遺伝子とその働き	・遺伝子の本体、DNAの構造、研究史について理解する。 ・遺伝子の複製と分配、細胞周期について理解する。 ・遺伝情報とタンパク質の合成について理解する。	
	7	遺伝子とその働き	・遺伝子とゲノムについて理解する。 ・細胞内での遺伝子発現について理解する。 ・染色体とパフについて理解する。	
2	9	体内環境	・体内環境の維持について理解する。 ・血液の成分と働きについて学ぶ。 ・酸素解離曲線、血液凝固について学ぶ。 ・体液の循環、心臓の構造について学ぶ。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	10	体内環境維持のしくみ	・体内環境を調節する器官について理解する。 ・自律神経系のはたらきと構造について学ぶ。	

	11		・内分泌系による調節（ホルモンのはたらき）について学ぶ。 ・血糖量調節について学ぶ。 ・体温調節について学ぶ。	
	12	免 疫	・生体の物理的・化学的防御について学ぶ。 ・免疫系（自然免疫・獲得免疫）について理解する。 ・免疫疾患と免疫を利用した医療について理解する。	
3	1	植生の多様性と遷移	・植生とその環境について理解する。 ・森林の構造と光環境について学ぶ。 ・陰生植物と陽生植物について理解する。 ・遷移（一次遷移，二次遷移）について理解する。	定期試験 授業への取り組み 提出物 小テスト
	2	バイオームとその分布 生態系とその保全	・世界のバイオーム，日本のバイオームについて理解する。 ・水平分布と垂直分布について学ぶ。 ・生態系の成り立ちについて学ぶ。 ・生態系を流れるエネルギーについて理解する。 ・栄養段階と生態ピラミッドについて理解する。 ・炭素と窒素の循環について理解する。 ・生態系の物質収支について理解する。 ・生態系のバランスと保全について理解する。	
	3		・生物の多様性保全の重要性について学ぶ。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	体育	2	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	『新版 健康手帳』

1. 学習の目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、多様性や体力の必要性について理解し、基礎・基本的な技能等を習得する。また、運動の継続のために課題を発見し、解決に向けて、自分や仲間の考えを伝え、思考し判断する。さらに、運動における競争や協働の経験を通して、健康・安全を確保しながら、公正に取り組み、互いに協力しながら自己の責任を果し、参画するとともに一人一人の違いを認め、大切にする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や魅力、必要な体力等の理解と基礎的・基本的な技能や攻防、体の動かし方の習得を関連させて学習している。また、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わいながら、多様な関わり方を場面や状況に応じて選択し、実践している。	生涯にわたり、運動を豊かに継続するための課題や自己や仲間の運動の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、思考し判断するとともに、自己や仲間の考えを他者に言葉や文章、動作等で表現している。	自分や仲間の健康・安全に留意しながら、各運動の課題解決のための過程や互いのさまざまな違いを認めながら、仲間と学習を進めるための具体的な例を示し、練習や試合、発表等を通して、意欲的、自主的に取り組んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動	ラジオ体操第一 整列、方向転換、人員点呼、列の増減、行進等	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験
	5	○体づくり運動 ・新体力テスト	50m走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	
	6	○水泳・器械体操（選択制） ・水泳（自由形・平泳ぎ） ・器械体操（マット） ○体育理論 「スポーツの発祥と発展」 ①スポーツの始まりと変遷	キック、ストローク、呼吸、コンビネーション、測定前転、後転、開脚前転、開脚後転、倒立、倒立前転、側方倒立回転、片足平均立ち 等 ・スポーツの始まりと発展 ・近代スポーツから国際スポーツへ	
	7	○体育理論 ②文化としてのスポーツ	・スポーツを文化としてとらえること ・スポーツ文化への多様なかわり方と変容	
2	9	○陸上競技（選択制） ・走り高跳び ・ハードル走 ・砲丸投げ	・助走、踏切、空中姿勢、着地、測定 ・ハードリングドリル（5歩・3歩・アプローチ） 助走、踏切、空中姿勢、着地、測定 ・持ち方、投げ方、ステップ、測定	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験

	10	○武道・ダンス（選択制） ・剣道 ・柔道 ・ダンス	・礼法，基本動作（姿勢，進退動作，体さばき，素振り等，応用動作等） ・礼法，基本動作，（姿勢，組み方，進退動作，くずし，体さばき，受け身），約束練習等 ・課題ダンス，基本ステップ，表現方法，モチーフ作成，小作品作り，創作ダンス作り，表現と鑑賞等	
	11	○武道・ダンス（選択制） ・剣道 ・柔道 ・ダンス ○体育理論 ③オリンピックとパラリンピックの意義 ④スポーツが経済に及ぼす効果	・礼法，基本動作（姿勢，進退動作，体さばき，素振り等，応用動作等） ・礼法，基本動作，（姿勢，組み方，進退動作，くずし，体さばき，受け身），約束練習等 ・課題ダンス，基本ステップ，表現方法，モチーフ作成，小作品作り，創作ダンス作り，表現と鑑賞等 ・オリンピックの意義 ・パラリンピックの意義 ・スポーツと経済 ・スポーツ産業の拡大	
	12	○体育理論 ⑤スポーツの高潔さとドーピング ⑥スポーツと環境	・スポーツの高潔さを守ること ・スポーツにおけるドーピング ・スポーツと環境問題 ・これからのスポーツ環境保護	
3	1	○陸上競技 ・長距離走	持久走，記録計測 長距離走に慣れる，呼吸法，ペース走等	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験
	2	○球技（選択制） ・バレーボール ・サッカー ・ソフトテニス	・個人技能（パス，サーブ，スパイク，レシーブ等） 集団技能（三段攻撃，簡易ゲーム，試合等） ・個人技能（パス，ドリブル，シュート等） 集団技能（4対2，簡易ゲーム，試合等） ・個人技能（サーブ，ストローク，スマッシュ等） 集団技能（ダブルスのコンビネーション，簡易ゲーム，試合等）	
	3	○球技（選択制） ・バレーボール ・サッカー ・ソフトテニス	・個人技能（パス，サーブ，スパイク，レシーブ等） 集団技能（三段攻撃，簡易ゲーム，試合等） ・個人技能（パス，ドリブル，シュート等） 集団技能（4対2，簡易ゲーム，試合等） ・個人技能（サーブ，ストローク，スマッシュ等） 集団技能（ダブルスのコンビネーション，簡易ゲーム，試合等）	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	保健	1	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『現代高等保健体育』(大修館書店)	なし

1. 学習の目標

健康を保持増進するために教育面・環境面の支援を組み合わせでおこなうヘルスプロモーションが重要なことを理解する。また、実生活と照らし合わせながら学び、生涯を通じて、健康を自ら考え、適切に意志決定・行動選択ができるようにする。「一人一人がたった一回限りの貴重な人生を今生きている」ということを理解し、自分や他人の生命や生活を心から尊重し、それぞれの幸せを協力して実現しようとする態度を身につけられるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
心身の健康や生活習慣などの身近な保健課題を理解し、正しい知識を身につけている。また、個人の健康課題や応急手当について適切に対処する方法を身につけている。	学習内容を日常生活に照らし合わせ、自己の健康課題を発見し、自ら解決しようとしている。 個人の健康や社会の課題について考え、公正に判断できている。	健康・安全に関心を持ち、自らの健康の保持増進や回復に向け主体的に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた	健康についての多様な考え方 健康の成り立ちとその要因 わが国における健康水準の向上 わが国における健康問題の変化	授業への取り組み 提出物 定期試験
	5	3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復	生活習慣病とその種類 予防から回復まで がんとその種類 がんの予防 がんの治療と緩和ケア がんとともに生きる社会づくり	
	6	6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	健康からみた運動の意義 健康により運動のしかた 健康的な食生活の意義 健康により食事のとり方 健康からみた休養・睡眠の意義 健康からみた睡眠の意義	
	7	9 喫煙と健康	喫煙の影響 喫煙への対策	
2	9	10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴	飲酒の影響 飲酒への対策 薬物乱用の影響 薬物乱用の要因と対策 精神疾患の要因と種類 精神保健の今日的課題	授業への取り組み 提出物 定期試験
	10	13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復	日常生活における精神疾患の予防 精神疾患の早期発見・早期治療 専門家による支援と治療 社会環境の整備	

		15 現代の感染症	感染症とは さまざまな感染症	
	11	16 感染症の予防	感染症予防の3原則 現代の感染症対策	
		17 性感染症・エイズとその 予防	性感染症・エイズとは 性感染症・エイズの予防	
		18 健康に関する意思決定・ 行動選択	意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 適切な意思決定・行動選択を実現する工夫	
	12	19 健康に関する環境づくり	健康を保持増進するための環境 ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくり	
3	1	2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全	事故とその被害 事故の発生に関する要因 自他の安全を確保する行動 安全を確保する社会の取り組み 交通事故防止のための取り組み 交通事故と運転者の責任	授業への取り組み 提出物 定期試験
	2	4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当	応急手当の意義 応急手当の手順 けがに応じた応急手当 熱中症の応急手当	
	3	6 心肺蘇生法	心肺蘇生法の意義と方法	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	音楽 I	2	高校1年1～6組, 10～12組

使用教科書	副教材
『MOUSA 1』（教育芸術社）	なし

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して完成度を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。音楽文化について理解し、多様な観点から主体的に関わり、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的、協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
	4	歌唱 歌唱	高校校歌、大学校歌の歌唱練習を行う。 高校校歌の歌詞を理解し、暗譜をする。 歌唱練習を行う。 強弱記号や反復記号を理解する。	授業への取り組み 提出物 実技試験
	5	実技試験 器楽	高校校歌の歌唱試験を行う。 ミュージックベルの練習を行う。 それぞれの音の関係やリズムを理解し、アンサンブルをする。	
	6	実技試験 器楽	ミュージックベルの実技試験を行う。 ヴァイオリンの練習を行う。 ヴァイオリンの構造や奏法を理解する。	
	7	リズム	「プリマスロック」のリズム練習を行う 様々な音符やリズムを習得する。 体を使い、強弱を工夫しながら表現する。	
2	9	歌唱 実技試験	「野ばら」の歌唱練習を行う。 ドイツ歌曲の特性を学び、楽曲の表現を模索する。 「野ばら」の歌唱試験を行う。	授業への取り組み 提出物 実技試験
	10	実技練習 実技試験 合唱	カップスの練習を行う。 リズムやアレンジの仕方を理解し、グループ練習を行う。 カップスの試験を行う。 合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習を行う。 パート練習を中心に行う。	
	11	実技練習 合唱	自由演奏の練習を行う。 演奏する曲や演奏形態などを決める。 合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習を行う。 パート練習、全体練習を行う。	
	12	実技練習 合唱	自由演奏の練習を行う。 メロディーやリズムを理解する。 合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習を行う。 全体練習を中心に行う。	

3	1	合唱 実技練習	合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習を行う。 強弱などの表現を工夫し、調和したハーモニーを作る練習を行う。 自由演奏の練習を行う。 表現方法を工夫する。	授業への取り組み 提出物 実技試験
	2	合唱 実技練習	合唱コンクールの課題曲・自由曲の練習を行う。 本番に向けて合唱曲を作り上げる。 自由演奏の練習を行う。 発表に向けて、演奏技術を高める。	
	3	実技試験	自由演奏の発表を行う。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
芸術	美術 I	2	高校1年1組、7～10組、12組、13組

使用教科書	副教材
『高校の美術1』（日本文教出版）	なし

1. 学習の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。また、造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。さらに、主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	素描 手のデッサン	基本的な用具の使い方を学ぶ。 手の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子で手を描く。	授業への取り組み 提出物 出席状況
	5	素描 手のデッサン 自画像	手の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子で手を描く。 人体の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子を工夫しながら自画像を描く。 「顔の各パーツ」プリント	
	6	素描 自画像	人体の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子を工夫しながら自画像を描く。 木炭紙大の画用紙に描く。 プロポーションのバランスや光の方向を根気よく観察して丁寧に描く。また、自分自身と真剣に向き合い、自身の個性や人間性を表現する。	
	7	素描 自画像 デザイン 平面構成	人体の構造を理解し、鉛筆による明暗の調子を工夫しながら自画像を描く。 「自然物からの平面構成」の準備として「自然物のデッサン」を描く。モチーフとなる自然物を自由に選び自画像での経験を生かしてデッサンする。	

2	9	デザイン 平面構成	1学期に描いたデッサンをもとに「自然物からの平面構成」の構想を練り、作品のアイデアスケッチと下絵を描く。	授業への取り組み 提出物 出席状況
	10	デザイン 平面構成	1学期に描いたデッサンをもとに「自然物からの平面構成」の構想を練り、作品のアイデアスケッチと下絵を描く。	
	11	デザイン 平面構成	アクリルやポスターカラーで色彩計画に沿った彩色を進めて作品を完成させる。	
	12	デザイン 平面構成 粘土で作る 立体の自由制作	アクリルやポスターカラーで色彩計画に沿った彩色を進めて作品を完成させる。 粘土で作る立体作品の準備として各自でモチーフの検討を行い作品の構想を練り、下絵を完成させる。	
3	1	粘土で作る 立体の自由制作	下絵をもとに作品の芯棒を制作し、石粉粘土を使用してモデリングを行う。	授業への取り組み 提出物 出席状況
	2	粘土で作る 立体の自由制作	下絵をもとに作品の芯棒を制作し、石粉粘土を使用してモデリングを行う。粘土による造形の他、絵の具で彩色を施したり他の素材で装飾をしたりすることもできる。思い描いた作品のイメージを立体的に表現する。	
	3	粘土で作る 立体の自由制作	粘土による造形の他、絵の具で彩色を施したり他の素材で装飾をしたりすることもできる。思い描いた作品のイメージを立体的に表現する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	高校1年1～9組(総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『Heartening English CommunicationⅠ』(桐原書店)	『Heartening English CommunicationⅠ 学習ノート』 (桐原書店) 『Hyper Listening Pre-Intermediate』(桐原書店) 『英単語ターゲット1400 5訂版』(旺文社)

1. 学習の目標

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。また、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 Heartening Hyper Listening	L.1 Bringing Out the Best in Himself Lesson 1, 2	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	Heartening Hyper Listening	L.2 Hold On, Anzu! Lesson 3, 4	
	6	Heartening Hyper Listening	L.3 We Can Make a Difference L.4 Creative Problem Solving Lesson 5～8	
	7			
2	9	Heartening Hyper Listening	L.5 Canned Bread to Feed the World Lesson 9～11	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	Heartening Hyper Listening	L.6 Could We Have a Real Jurassic Park? Lesson 12～14	
	11	Heartening Hyper Listening	L.7 Behind the Price Tag Lesson 15, 16	
	12	Heartening	L.8 The World's Winter Festivals	
3	1	Heartening Hyper Listening	L.9 Talking Trees Lesson 17, 18	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	2	Heartening Hyper Listening	L10 Capturing the Reality of the World Lesson 19, 20	

	3			
--	---	--	--	--

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語コミュニケーション I	3	高校1年10～13組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『Heartening English Communication I』(桐原書店)	『Heartening English Communication I 学習ノート』(桐原書店) 『SKYWARD RAINBOW Course』(桐原書店) 『Hyper Listening Pre-Intermediate』(桐原書店) 『英単語ターゲット1400 5訂版』(旺文社)

1. 学習の目標

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。また、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	基礎学力到達度テスト対策 Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 1 Bringing Out the Best in Himself Lesson 1, 2 Unit 1, 2	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	5	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 2 Hold On, Anzu! Lesson 3, 4 Unit 3, 4	
	6	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 3 We Can Make a Difference L. 4 Creative Problem Solving Lesson 5～8 Unit 5～8	
	7			
2	9	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 5 Canned Bread to Feed the World Lesson 9～11 Unit 9～11	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	10	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 6 Could We Have a Real Jurassic Park? Lesson 12～14 Unit 12～14	
	11	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 7 Behind the Price Tag Lesson 15, 16 Unit 15, 16	
	12	Heartening	L. 8 The World's Winter Festivals	

3	1	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L. 9 Talking Trees Lesson 17, 18 Unit 17, 18	定期試験 授業への取り組み 小テスト 提出物
	2	Heartening Hyper Listening SKYWARD	L10 Capturing the Reality of the World Lesson 19, 20 Unit 19, 20	
	3			

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現 I	3	高校1年1組～9組 (総合進学クラス)

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression I Standard』 (数研出版)	『EARTHRISE English Grammar in 24 Stages』(数研出版), 『Workbook for EARTHRISE English Grammar in 24 Stages』 (数研出版), 『EARTHRISE アースライズ総合英語』(数研出版), 『Speak & Write』(エスト出版), 『Jet Reading』(数研出版)

1. 学習の目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域(話すこと(やり取り), 話すこと(発表), 書くこと)ができるように, ふさわしいものを理解するとともに, それらと言語活動とを効果的に関連付け, 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら, 話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現している。	日常的な話題や社会的な話題について, 会話をしようしたり, 聞き出そうしたり, 共通点を探し出そうしたりする等, 間違えることを恐れずに, 三つの領域の活動を行っている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Lesson 1・2 Lesson 3	文の組み立て方(1)(2) 動詞と時の表し方①ー現在・過去	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	5	Lesson 4 Lesson 5・6 Lesson 7 Jet Reading	動詞と時の表し方①ー未来 動詞と時の表し方②ー完了形(1)(2) 助動詞(1) 会話, 説明文, 広告	
	6	Lesson 8・9 Lesson 10・11 Jet Reading	助動詞(2)(3) 受動態(1)(2) 会話, 評論, 説明文, テキストメッセージ	
	7		インタビューテスト(英会話)	
2	9	Lesson 12・13・14 Extra Lesson 1 Jet Reading	不定詞(1)(2)(3) 不定詞を使った慣用表現 評論, 説明文, メール	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	10	Lesson 15・16 Lesson 17・18 Jet Reading	動名詞(1)(2) 分詞(1)(2) 説明文, 評論	
	11	Extra Lesson 2 Lesson 19 Jet Reading	分詞演習 関係詞(1) 説明文, ウェブサイト, 評論	
	12	Lesson 20	関係詞(2) Show and Tell 発表 (英会話)	
3	1	Lesson 21 Lesson 22 Jet Reading	関係詞(3) 比較(1) グラフ, 評論	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	2	Lesson 23 Lesson 24 Jet Reading	比較(2) 仮定法 説明文	
	3	Jet Reading	エッセイ ディベート(英会話)	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	論理・表現 I	3	高校1年10組～13組 (特別進学クラス)

使用教科書	副教材
『EARTHRISE English Logic and Expression I Standard』 (数研出版)	『EARTHRISE English Grammar in 24 Stages』(数研出版), 『Workbook for EARTHRISE English Grammar in 24 Stages』 (数研出版), 『EARTHRISE アースライズ総合英語』(数研出版), 『Speak & Write』(エスト出版), 『Jet Reading』(数研出版)

1. 学習の目標

言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
三つの領域(話すこと(やり取り), 話すこと(発表), 書くこと)ができるように, ふさわしいものを理解するとともに, それらと言語活動とを効果的に関連付け, 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	日常的な話題や社会的な話題について, 英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら, 話したり書いたりして情報や自分自身の考えなどを適切に表現している。	日常的な話題や社会的な話題について, 会話をしようとしたり, 聞き出そうとしたり, 共通点を探し出そうとしたりする等, 間違えることを恐れずに, 三つの領域の活動を行っている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	Lesson 1・2 Lesson 3	文の組み立て方(1)(2) 動詞と時の表し方①ー現在・過去	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	5	Lesson 4 Lesson 5・6 Lesson 7 Jet Reading	動詞と時の表し方①ー未来 動詞と時の表し方②ー完了形(1)(2) 助動詞(1) 会話, 説明文, 広告	
	6	Lesson 8・9 Lesson 10・11 Jet Reading	助動詞(2)(3) 受動態(1)(2) 会話, 評論, 説明文, テキストメッセージ	
	7		インタビューテスト(英会話)	
2	9	Lesson 12・13・14 Extra Lesson 1 Jet Reading	不定詞(1)(2)(3) 不定詞を使った慣用表現 評論, 説明文, メール	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	10	Lesson 15・16 Lesson 17・18 Jet Reading	動名詞(1)(2) 分詞(1)(2) 説明文, 評論	
	11	Extra Lesson 2 Lesson 19 Jet Reading	分詞演習 関係詞(1) 説明文, ウェブサイト, 評論	
	12	Lesson 20	関係詞(2) Show and Tell 発表 (英会話)	
3	1	Lesson 21 Lesson 22 Jet Reading	関係詞(3) 比較(1) グラフ, 評論	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験 行動観察
	2	Lesson 23 Lesson 24 Jet Reading	比較(2) 仮定法 説明文	
	3	Jet Reading	エッセイ ディベート(英会話)	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	1	高校1学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	『高校生のキャリアノート』（実務教育出版） 『GLOBE 02』（TWICE PLAN）

1. 学習の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
他教科等及び総合的な探究の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにする。	探究の過程において発揮され、未知の条項においても活用できるものとして身に着けられるようにする。 学んだり、調べたりした内容をもとに、グループ討議において論理的・批判的に自分の意見を述べるができる。与えられた課題の意味を理解し、グループ討議において解決策について討議することができる。	課題に対し、新しいことに挑戦する気持ちで臨むことができる。また、グループのメンバーとのコミュニケーションを通じて相互に意志を伝達することができる。グループ活動において、よりよい成果をあげるために、お互いを尊重することができる。 自己の学修経験、自己評価及び他者からの評価をもとに振り返りを行うことができる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	高校生活レッツスタート	『高校生のキャリアノート』を使用 Work 1, 2, 3, 4	授業への取り組み ポートフォリオへの入力 提出物
	5	オリエンテーション 高大連携教育にむけて 学習・研究スキルズ	総合的な探究の時間についての説明 高大連携教育に向けてグループ分け 『高校生のキャリアノート』を使用し、課題研究を進めていくためのスキルを学ぶ。 Work1, やってみよう1	
	6	進路探究 マイナビ講演会 学習・研究スキルズ	『高校生のキャリアノート』を使用し、課題研究を進めていくためのスキルを学ぶ。 Work 2	
	7			
2	9	高大連携教育	グループ活動、スライドの作成、学部訪問 プレゼンテーションの準備	授業への取り組み ポートフォリオへの入力 提出物
	10	進学色々発見 ワールドツアーズ 最初の準備	『高校生のキャリアノート』を使用し、進路について学ぶ。 チームを作り、リーダーを決めてチーム名や意気込みを考える。チームで相談してツアーに出る国を選ぶ。	
	11	ワールドツアーズ	チームでツアーの全体像をイメージし、現地で「自分	

		チーム会議 プレゼン準備 ミニ・プレゼン ガイドづくり①	自身と自国をどう紹介するか」を話し合う。 チームで考えた地アート自己紹介の内容をクラスで プレゼンテーションをする。みんなで審査して“ミ ニ・プレゼン No.1”を決める。 イメージをしたツアーを目に見える形にするために ガイドブックづくりをする。	
	12			
3	1	ワールドツアーズ ガイドづくり②③	旅先でどこに行って何をするかを想像したり，出か ける国の特徴や見どころについて調べるたり，イメ ージとリサーチで集めた情報を編集する。	授業への取り組み ポートフォリオへの入力 提出物
	2	ワールドツアーズ プレゼン準備 リーサル，本番 レポート執筆，振り返り	つくりあげたガイドブックをもとに，各チームが想 像したツアーをクラスでプレゼンテーションする。 他チームとの違いや共通点を見つけることを通じ て，世界の多様性を疑似体験する。	
	3			

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。